

【3】山手地区ってこんなまちです

（山手地区の紹介）

佐世保市のシンボルとして、市歌に校歌にと折り込まれてきた烏帽子岳。眼下には佐世保湾や市街地を一望できる絶景が広がり、緑豊かな山肌の四季の彩りは、人々の心を包み込みます。この烏帽子岳から南側のふもとにかけて、山手地区の8町が広がっています。高台には烏帽子町、田代町、山手町、東には折橋町、松山町、西には名切町、花園町、熊野町がそれぞれ位置し、地区内の住民は昔から仲良く歴史を重ねてきました。

文明が川とともに生まれ、発展したように、山手地区も烏帽子の豊かな水とともに時代を歩んできました。その水が流れる折橋川と名切川の流域には、100年ほど前までは田畑も広がっていました。

明治19年（1886年）に佐世保に軍港が設置されると、全国から多くの人が集まり、山手地区も、住宅地、商業地、娯楽地として繁栄しました。戦後に祇園町、熊野町の一部となった太田町は、現在の四ヶ町と肩を並べる繁華街を形成していました。

花園町、熊野町の名切通り沿いの土地は、戦後米軍の住宅地として接收されていましたが、返還後に、市民会館、児童文化館、武道館、ふれあいセンターが建設されるなど、現在では、福祉・文化・スポーツの拠点として、また憩いの場として多くの市民が訪れています。

また、烏帽子岳の山頂付近には、100年の森構想実行委員会の方々や市民の手によって苗木が植樹され、地球温暖化防止の一環を担っています。折橋谷には聖和女子学院があり、北佐世保駅の周辺で交通の便にも恵まれています。

環境に恵まれたこの地区は、人に優しく大変住みやすい地区です。

※山手地区と呼ばれる範囲は・・・

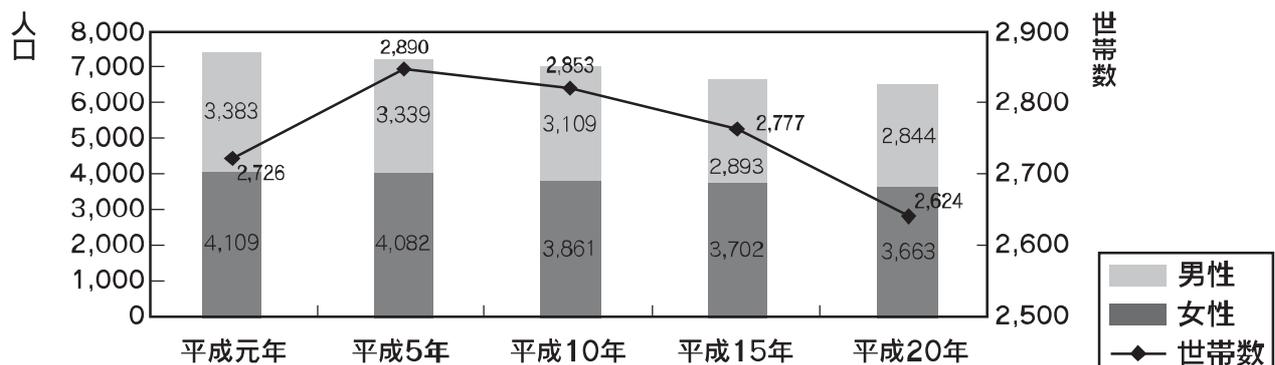
花園町、熊野町、田代町、烏帽子町、山手町、名切町、折橋町1組、折橋町2組、折橋町3組、折橋町4組、松山町

〔佐世保市における山手地区の位置〕



（山手地区の人口推移）

※いずれも10月1日現在の統計資料



(山手地区“わがまち自慢”)

山手地区には“自慢”がいっぱい！その一部を紹介します。

田代町・烏帽子町

田代町・烏帽子町は烏帽子岳を望む今も昔と変わらない自然豊かな町です。

烏帽子岳には、研修宿泊施設やキャンプ場、バーベキュー場などを備えた「青少年の天地」や、各種遊戯施設を備えた「えぼし岳高原リゾートスポーツの里」などがあり、県内外から多くの人を訪れます。

田代町には、140年以上の歴史を持つ、石造りの「六柱神社」があります。風化は進んでいるものの、今もなお、昔と変わらない趣のある神社です。毎年4月と10月には、ここでお祭りをして、町内の活性化を図っています。

松山町 ～松山公園～

町内の一番高い場所にある松山公園は、平成15年4月1日に5054㎡（約1800坪）の敷地につくられました。終戦前は旧陸軍墓地の予定地だった場所にできたこの公園には、子ども向けブランコなどの遊具の他に、水洗トイレも完備されていて、子どもたちの遊び場として親しまれています。

また、この公園を少し下がった所からは、佐世保湾が一望でき、花火シーズンには人気のスポットになっています。

折橋町

折橋町には1組から4組までの町内会があり、それぞれに独立して公民館活動をしています。

年1回、4組合同で行われるレクリエーション大会には、毎年、200～300名が参加し、グラウンドゴルフやソフトバレーなどの大人向けの種目のほかに、輪投げや風船割りといった子どもが参加できる種目も行われます。参加者全員が輪になって昼食をとり、『折橋音頭』を踊った後に大抽選会を行うなど、みんなで和気あいあいと1日を過ごします。

大きな町内ですが、こうした場でのコミュニケーションを通じて、たくさんの人と触れ合うことができます。

山手町 ～山手っ子通学合宿～

平成20年で4回目となった「山手っ子通学合宿」では、山手町公民館に子どもたちがみんなで泊まり、食事の準備、掃除、洗濯などを共同で行いながら4日間を楽しく過ごしています。

町内の方々のご支援の下、親元を離れ、ルールを守りながら過ごす集団生活の中で、普段とは違った雰囲気を感じ、子どもたちにとって充実感のある貴重な思い出となっています。また、「もらい風呂」や「手伝い」など、元気な子どもたちが町内の方と交流することで、町内が活性化される行事にもなりつつあります。

熊野町

三方を緑の木々に囲まれ、小鳥のさえずりで目を覚ます熊野町は、春には桜を、秋には名切通りの紅葉を愛でることができる風光明媚な町です。空襲により焦土となるまでは商店街もあり、大変賑わっていました。現在、町内には、武道館・交通公園・児童文化館等の施設があります。

町内の中央には、大正9年に開山された成田山不動院があり、境内には名工筒井富士登氏作の西国三十三ヶ所の磨崖佛や隧道式の奥の院があります。その他にも四国八十八ヶ所・不道明王三十六童子や、八大童子・十三佛などが祀られています。

